

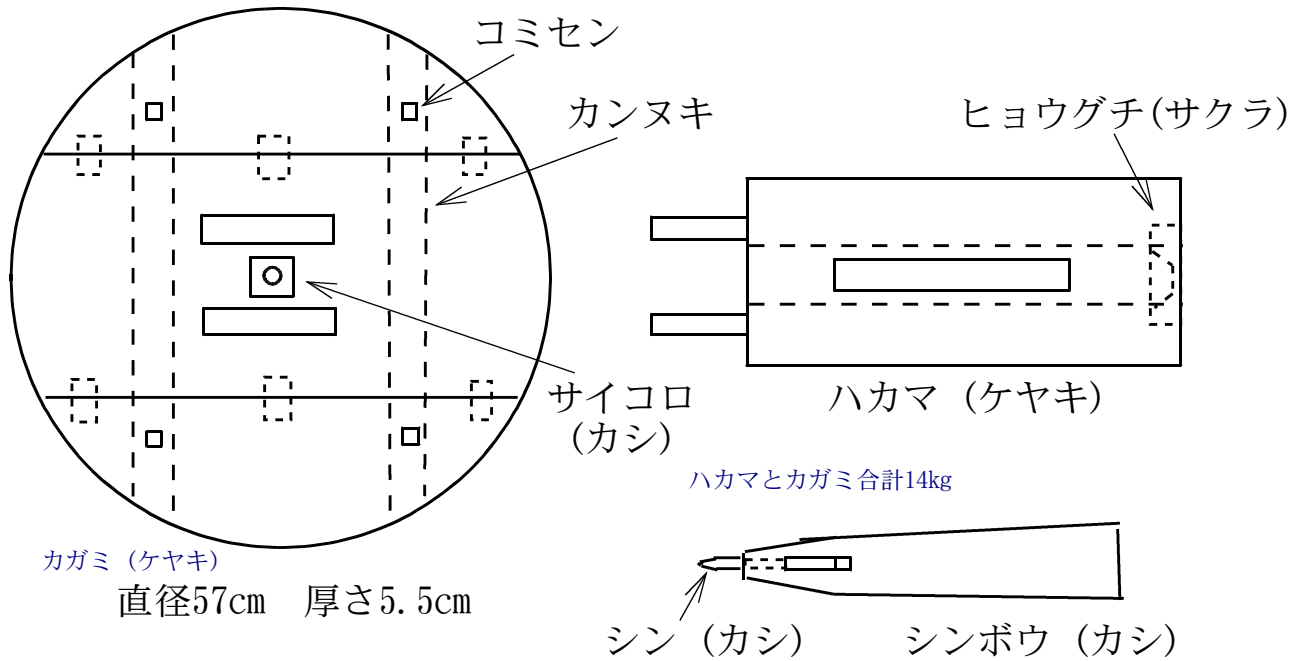
☆手回しロクロの据え付け☆

04. 9/18



私の父が昭和10年ごろ、瀬戸で勉強していた時に、中古で購入した内の一丁です。
そのときからすでに90年経っていますので、おそらく100年以上前の物です。
全て木製でまだ十分使える物です。

日本の陶芸は中国系と朝鮮系の2系列があり、中国系が手回しロクロ、朝鮮系は蹴ロクロと言われています。父が手回しロクロの瀬戸の人に習い、私も父のまねをしたので、瀬戸の作り方をしていることになります。



ハカマ カガミ



サイコロ



ヒョウグチ



シン



心棒を垂木で固定。



鏡をのせバランス調整。



芯を伸ばしハカマを付ける



粘土でバランス調整。計量して同じ位置に同じ重さの鉛を打ち込む、鏡も同じ。



油は芯にポマード



瓢口には椿油



箱をかぶせる



細かい部品まで木製なのがうれしい。先人の苦勞と工夫が偲べれます。ボセ (廻し棒)